

中学生・高校生のためのサイエンス・カフェ

選挙制度と投票制度の機能と選択：概要

2017年11月20日、30日

鈴木興太郎（日本学術会議連携会員、日本学士院会員）

スコットランドの英国残留を裁く国民投票、英国の欧州連合（EU）からの衝撃的な離脱を決定した国民投票、トランプ政権の誕生に導いた米国の大統領選挙、カタロニアのスペインからの離脱を宣言した住民投票など、最近の欧米では投票や選挙を梃子として重要なインパクトを持つ社会的選択が行われてきました。日本でも、出生率の低下と人口の年齢構成の老齢化を背景に、若齢層、壮齢層、老齢層の間の世代間衡平性を巡る対立が深刻化してきたことをきっかけにして、選挙と投票の制度改革が議論されるようになりました。

今回のサイエンス・カフェは、これらの具体的な事例を背景に、制度の社会的な設計と選択について考えることを目指しています。

議論の焦点としては、次のような問題を取りあげる予定です。

- (1) 制度とはなにか。制度は人びとが選択できる《変数》なのか、それとも人びとの行動を制約する固定された《規則の体系》なのか。
- (2) 英国と米国の選択結果は、いずれも驚きを持って迎えられた。意外性をもたらした要因には、選挙や投票の適用を歪ませた党派的な情報操作も一部あるが、これらの制度に固有の不備も指摘される必要がある。
- (3) 現在の日本では、政治家やメディアによって《制度設計》という用語が頻繁かつ軽率に用いられている。制度の設計と選択を的確かつ理性的に実行するためには、踏まえるべき《作法》がある。この基本的な作法を身につけることは、人文学・社会科学を学ぶことの重要な目的である。

どれも大きな問題であって、今回のサイエンス・カフェですっきりと解答を出すことは難しいのですが、参加される諸君がこれらの問題を自ら考える上で役に立つヒントを提供できれば幸いに思います。